



鉱山町の繁栄の跡を探访する『フィールドワーク in 鉱山町』の参加者のみなさん



『ふおれすと鉱山』支援組織設立総会

## 水中で楽しく健康づくり

～アクアビクス実技講習会～

6月28日(金)、市民プールで教育委員会の主催によるアクアビクス実技講習会が開かれました。

この催しは、水中で音楽に合わせてながら体を動かす健康法『アクアビクス』を体験してもらおうと、登別市出身でコンサドレ札幌の水中トレーニング講師などを務める市川由紀子さんを講師に招いて行われました。

75人の参加者は、プールの中で軽快な音楽に合わせてながら、足を上げ下げしたり2人1組でゲームをするなど約1時間にわたってさまざまな運動に挑戦。柏木町から参加した前田静子さんは「下半身に負担をかけずにいろいろな運動ができて、水泳とは違った楽しさを感じました。機会があればまた体験してみたいです」と話していました。



## ～フィールドワークin 鉱山町 ・『ふおれすと鉱山』支援組織 設立フォーラム開催～

6月16日(日)、鉱山町の魅力を発掘しながら自然を楽しむアウトドア講座『フィールドワークin 鉱山町』の第1回『鉱山の面影と今』と、ふおれすと鉱山の活用や運営に提言・支援する市民組織の立ち上げを目的とした『ふおれすと鉱山』支援組織設立フォーラムが開かれました。

午前中に開かれた『鉱山の面影と今』には、市民をはじめ、札幌市などから合わせて11人が参加。銅や硫黄の採掘で栄えたところの鉱山町の面影をしのばせる精錬所跡や坑道、軌道跡などを訪ねたり、森が再生する様子を確かめたりしながら、鉱山町の歴史や自然への知識を深めていました。

午後に行われた『「ふおれすと鉱山」支援組織設立フォーラム』には、市内の自然愛好グループや地元町内会の関係者など、26人が参加。

はじめにゲストの北海道地域づくりアドバイザー・青藤征義さんが登別ならではの魅力を発見し創造していくことの大切さを話しました。

続いて『ふおれすと鉱山』支援組織の設立総会が開かれ、名称を『ももんがクラブ』とし、会長に登別山岳会の松原條一さんを選出。組織の規約や活動方針などが確認され、市民と行政の協働によるふおれすと鉱山の運営がスタートしました。

# ふおれすと鉱山を バツクアツクアツク

## 和洋織り交ぜ音楽交流

～森のミニコンサート～

6月29日(土)、ふおれすと鉱山で登別デンマーク協会主催による『森のミニコンサート』が開かれました。

この催しは、登別デンマーク協会の招きで登別市を訪れていた、デンマークの研修生キャスパー・エリックセンさんと同協会の会員が、コンサートを通じて文化交流を深めようと開催されたものです。

コンサートは、キャスパーさんがドビュッシー作曲の『月の光』をはじめ、デンマークの名曲などをピアノの弾き語りで披露したほか、同協会の会員が琴や尺八で演奏した宮城道雄作曲『春の海』にピアノ演奏で参加しました。

最後は『さくらさくら』を参加者全員で合唱。訪れた約60人の市民は、美しい和洋の旋律に耳を傾けていました。

